

## 「モノのインターネット」分野でのグローバルアントレプレナー育成プログラム～Global

### Entrepreneurs in Internet Of Things (Geiot)

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：奈良先端科学技術大学院大学（総括責任者：小笠原 司）

#### 採択プログラムの概要

奈良先端科学技術大学院大学では、先端情報3分野（ソフトウェア・ロボット・情報セキュリティ）にまたがる先導的技術者を輩出するための人材育成プログラムに取り組んできた。本事業では、これを発展させ、グローバルアントレプレナーシップと、先端情報技術を社会実装側から捉えた「モノのインターネット」（IoT）分野における技術的素養とを兼ね備えるマルチスペシャリストを育成するPBL型教育プログラムと、輩出されるグローバルアントレプレナーによる革新的な事業創出を支援するイノベーション・エコシステムを同時に開発する。

具体的には、IoT分野において、ベンチャーを創出する優秀なアントレプレナーを育成し、シリコンバレー等の海外企業や大学との連携を通じて、実際に起業に至るまでの教育とサポートを実施する。また、ベンチャー創出に必要な、3タイプの人材からなるプロジェクトチームを形成し、PBL手法により、製品・サービスの開発を通じて実践力を養成する。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の 妥当性	補助事業期間 終了後における 取組の継続性 ・発展性
A	a	a	b	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

小規模大学院大学における起業家教育の試みであり、従来型の技術に軸足を置いた取組から、アントレプレナーシップの実践に向けた取組に進化するべく大学の特徴を活かした教程が適切に設計されて実施されている。地域のリソースを活用した異分野人材との協働の機会の提供等によって効果を上げていること、既存企業と連携して新ビジネスのインキュベーションを進めていること、その結果として2社の起業を行ったことは評価できる。今後は、学内の博士課程大学院生や若手研究者、より多くの社会人受講生を取り込み、学内の最先端技術を活用するアントレプレナーの育成に期待する。

・**目標達成度**：起業家マインドの醸成や、プロトタイプ作成を通じたソリューションの確立等のカリキュラムを実施し、計画を上回る受講生数を得ており、所期の目標に達している。ただし、若手研究者の受講生は学内外ともに得られず、学外からの参加者が企業派遣の社会人に偏っており、受講者の多様性確保が今後の課題である。採択時の留意事項には推進体制の強化が挙げられており、実施期間中に教職員の意識変革がどの程度進んだかの検証が求められる。

・**成果**：IoT分野等のテクノビジネスの創生をテーマに掲げつつ、イノベータ、マーケッタ、ファンドレイザの3タイプのロールモデルを定義し、3タイプの役割と能力の概要を理解した上で役割分担を明確にして事業を進める能力を養成するプログラムを実施している。(株)国際電気通信基礎技術研究所や大阪イノベーションハブなどの外部機関のノウハウを効果的に活用し、また、個別企業とはビジネスアイデアコンテストを行うなど、エコシステムを形成し、起業活動につなげている点は評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：定期的なプロジェクト管理、外部評価員の設置、そして受講生からのフィードバックをカリキュラム改善に反映させる体制は評価できるが、他大学への普及やノウハウの共有について十分とは評価できない。今後は、大阪イノベーションハブのさらなる活用などによる他組織への普及活動の強化を期待する。また、予算の使途に占める委託費の割合が高く、学内に育成のノウハウが蓄積されにくい仕組みであり、大学として国際的な視野での起業や事業創出を先導できる能力を持った人材が創出できると認知されるために、大学のブランディング向上を自ら仕掛けるなどの検討を期待したい。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：本事業での科目群を履修証明プログラムとして位置づける学内規程の整備を補助事業期間中に完了し大学院科目化を済ませていること、社会人受講生の受講料が設定されていることは評価できる。外部機関との連携が継続することなどから、社会人受講生の増加による効果も期待でき、補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性が期待できる。